

【1】 太郎さんと花子さんは、緑色植物の体のつくりとはたらきを調べるために、次の観察を行い、実験の計画を立てた。(1)～(5)の問いに答えなさい。

① ツバキの葉のようすを観察した。

〔図1〕

〔図1〕は、そのスケッチの一部である。

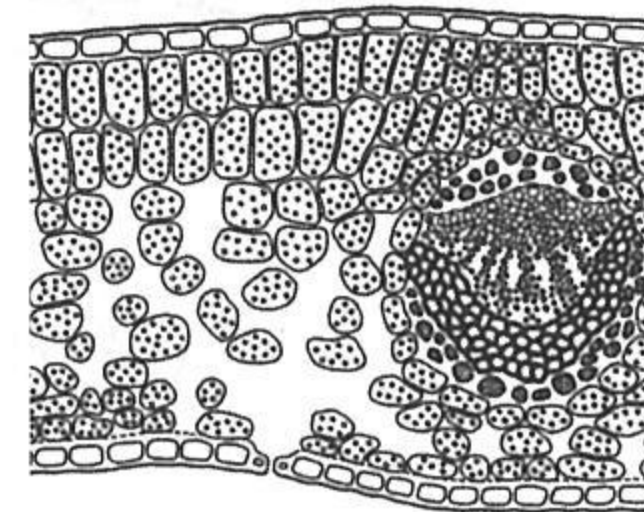
② ツバキの葉の断面を顕微鏡で観察するため、葉の一部を切りとった。切りとった葉の一部を観察しやすくするため、できるだけうすく切った。



③ うすく切れた切片を選んで、プレパラートをつくり、顕微鏡で観察した。

〔図2〕は、そのスケッチの一部である。

〔図2〕



緑色の  
小さな粒

(1) 〔図1〕と同じように、葉脈が網状脈になっている植物として適切なものを、ア～オからすべて選び、記号を書きなさい。

ア エンドウ      イ イネ      ウ ツユクサ      エ タンポポ      オ アブラナ

(2) 〔図2〕で、観察された緑色の小さな粒を何というか。名称を書きなさい。

(3) ②で、下線部の操作を行うとなぜ観察しやすくなるのか。その理由を簡潔に書きなさい。

光合成は葉のどこで行われているか、予想した。

【予想】

葉の光があたったところだけで光合成が行われ、デンプンができる。

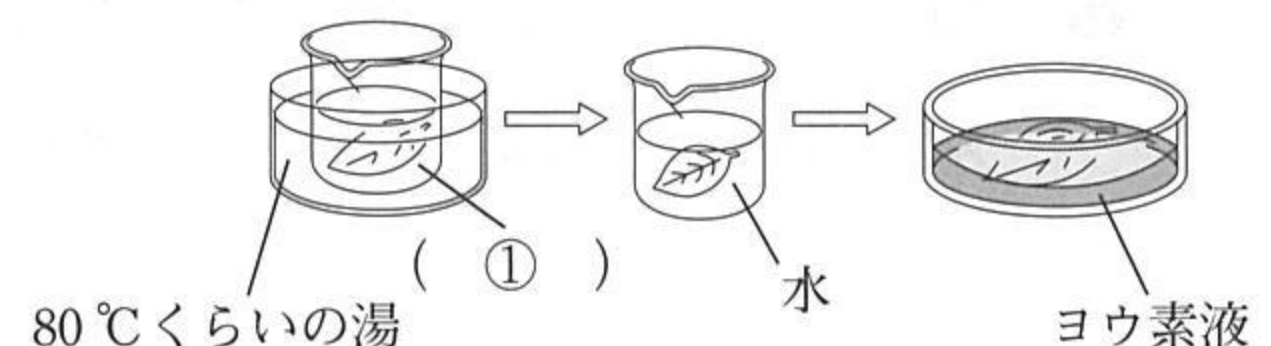
太郎さんは、予想を確かめるために、次の実験の計画を立てた。

【計画した実験】

A ポトスの葉に十分に光をあてる。

〔図3〕

B Aのポトスの葉の1枚を〔図3〕のように、あたためた(①)にひたして脱色し、水につけてやわらかくして、ヨウ素液につける。



(4) Bの下線部が正しい文になるように、(①)に当てはまる語句として最も適切なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

ア 炭酸水      イ ショ糖水溶液      ウ 酢酸カーミン液      エ エタノール

この実験について、花子さんと太郎さんが話をした。

花子：ポトスの葉に光をあてる前に、デンプンがない状態の葉を用意しておく必要があるんじゃないかな。

太郎：そうだよね。実験を始める前の葉にデンプンがあったら、光とデンプンの関係がわかりにくいよね。実験を始めるときは、葉にデンプンがないということが大切だよね。

花子：そう。それと、もう1つ。光があたったからこそデンプンができたといえるように、比較ができる実験にする必要があるね。

2人は、【予想】を確かめることができるようにするため、【計画した実験】を次のように見直した。

【見直した実験】

- a ポトスの葉にデンプンがない状態をつくるために、一昼夜、光を通さない袋でポトスのすべての葉をおおう。
- b 次の日、aのポトスにかぶせていた袋をはずす。
- c ( ② ) ために、bのポトスの葉のうち1枚を[図3]のように、あたためた ( ① ) にひたして脱色し、水につけてやわらかくして、ヨウ素液につける。
- d 光があたったところだけでデンプンができることを確かめるために、( ③ )、十分に光をあてる。
- e dのポトスの葉を[図3]のように、あたためた ( ① ) にひたして脱色し、水につけてやわらかくして、ヨウ素液につける。

- (5) 2人の会話をもとに、【見直した実験】が正しい文になるように、( ② )、( ③ ) に当てはまる語句を書きなさい。ただし、( ② ) にはcの実験の目的が、( ③ ) にはdの実験の操作がそれぞれ入る。なお、( ① ) には【計画した実験】の ( ① ) と同じものが入る。

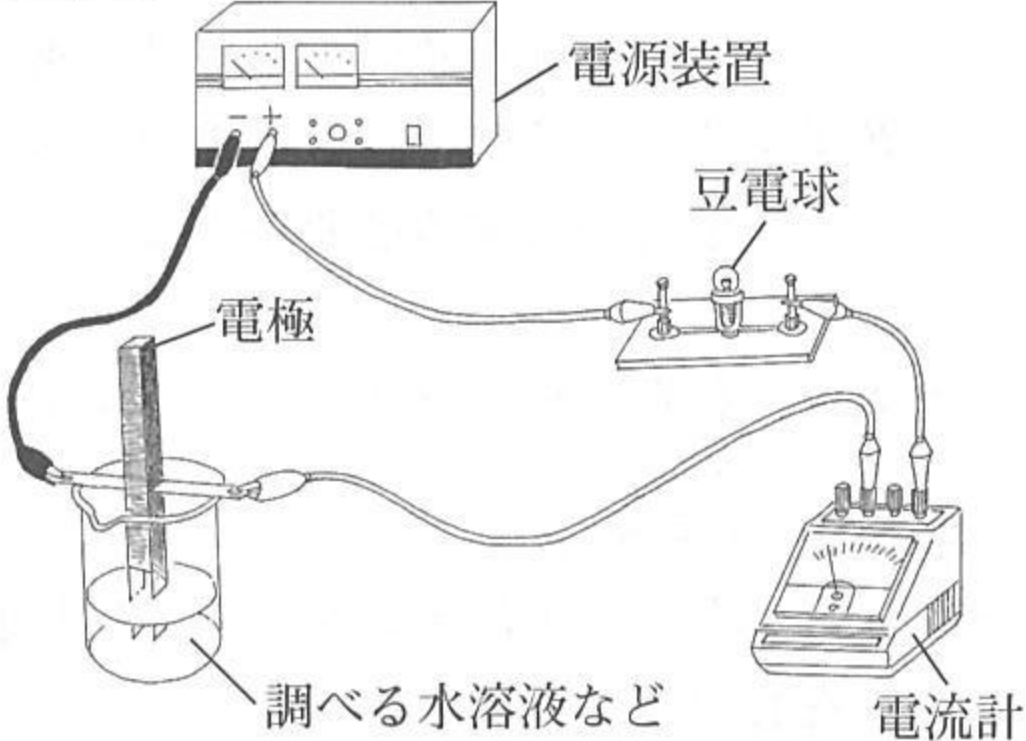


【2】 太郎さんと花子さんは、水溶液に電流が流れるしくみについて調べるために、次の実験を行った。(1)～(6)の問いに答えなさい。

Ⅰ 塩化ナトリウム水溶液などに流れる電流について調べた。

- ① ビーカー A, B, C を用意し, A に精製水 100 mL, B に 5 % の塩化ナトリウム水溶液 100 mL, C に 20 % の塩化ナトリウム水溶液 100 mL を入れた。
- ② ビーカー A の精製水に電極を入れ, [図 1] の装置で, 電源装置のスイッチを入れて豆電球のようすを調べた。ビーカー A を, ビーカー B, C にそれぞれかえて, 豆電球のようすを同様に調べた。なお, ビーカー A～C に加えた電圧はすべて同じであった。
- [表 1] は, ①, ②の結果をまとめたものである。

[図 1]



[表 1]

ビーカー	A (精製水)	B (5 % の塩化ナトリウム水溶液)	C (20 % の塩化ナトリウム水溶液)
体積 [mL]	100	100	100
豆電球のようす	光らなかった	光った	B より明るく光った

(1) [表 1] から, 次のように考察した。正しい文になるように, ( a ), ( b ) に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを, ア～エから 1 つ選び, 記号を書きなさい。

濃い水溶液はうすい水溶液よりも, ( a ) の数が ( b ) ので, 電流が大きく, 豆電球が明るく光る。

	ア	イ	ウ	エ
a	水分子	水分子	イオン	イオン
b	多い	少ない	多い	少ない

酸とアルカリの水溶液を混ぜた液について, 次の実験を行った。

Ⅱ 酸とアルカリの水溶液を混ぜた液の性質を調べた。

- ③ うすい水酸化バリウム水溶液を 20 mL 入れたビーカー D, E, F, G, H を用意し, それぞれに緑色の BTB 液を数滴加えた。
- ④ ビーカー E～H にうすい硫酸をそれぞれ 5 mL, 10 mL, 15 mL, 20 mL 加えたところ, 白い物質ができた。なお, ビーカー D にはうすい硫酸を加えなかった。
- ⑤ ビーカー E～H 中の混ぜた液をそれぞれろ過し, 白い物質とろ液に分け, ろ液の色を観察した。
- [表 2] は, ③～⑤の結果をまとめたものである。

[表 2]

ビーカー	D	E	F	G	H
うすい水酸化バリウム水溶液の体積 [mL]	20	20	20	20	20
加えたうすい硫酸の体積 [mL]	0	5	10	15	20
ろ液の色	青	青	緑	黄	黄

(2) うすい水酸化バリウム水溶液が手についてしまった場合, どのようにすればよいか。最も適当なものを, ア～エから 1 つ選び, 記号を書きなさい。

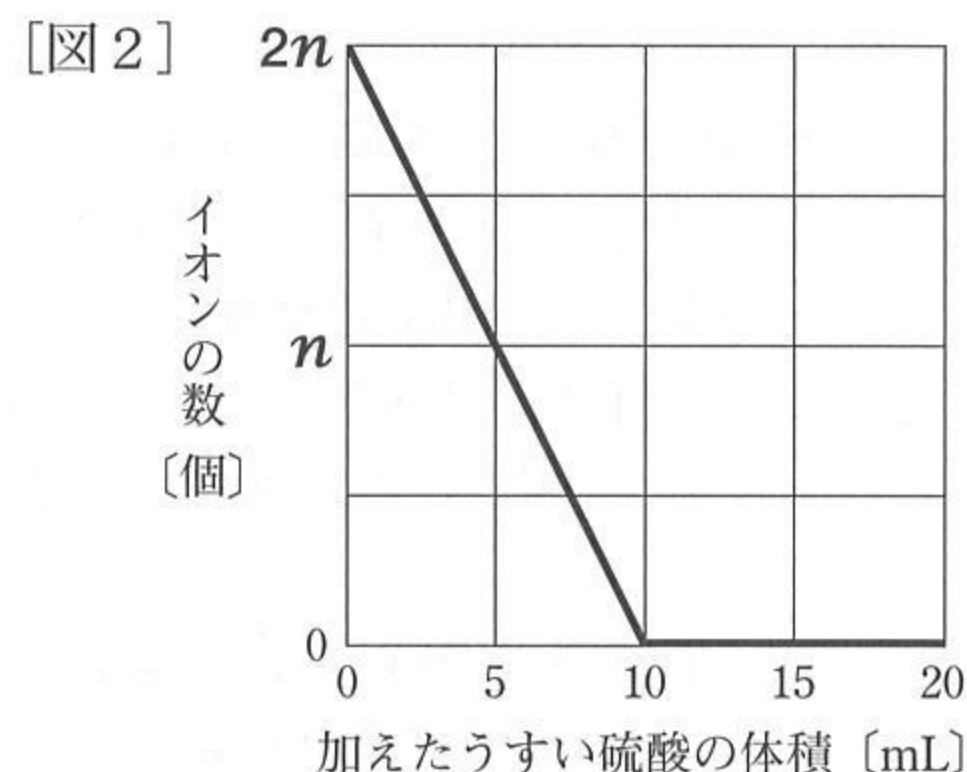
- ア 酸性の水溶液で洗い流す。                      イ 大量の水で洗い流す。
- ウ 布でよくふき取る。                              エ ドライヤーでよく乾かす。

(3) [4]で、うすい硫酸を加えたときの化学変化を、化学反応式で書きなさい。

(4) [4]で、できた白い物質は何か。物質名を書きなさい。

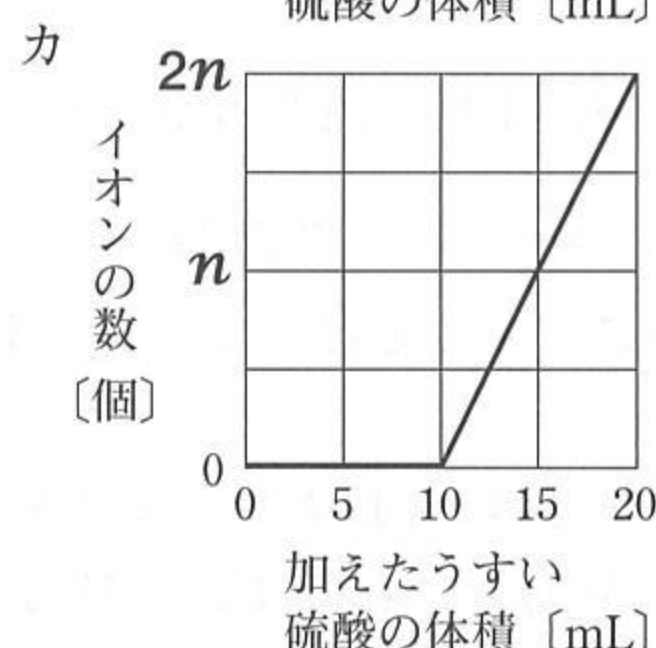
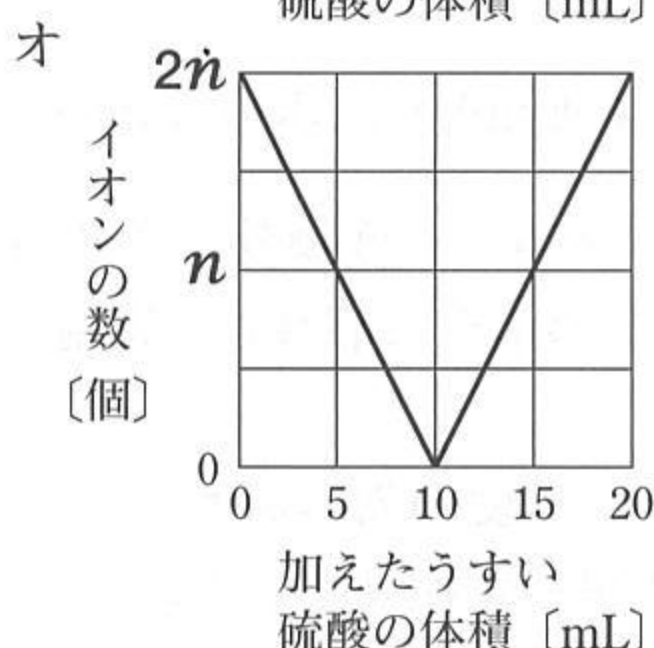
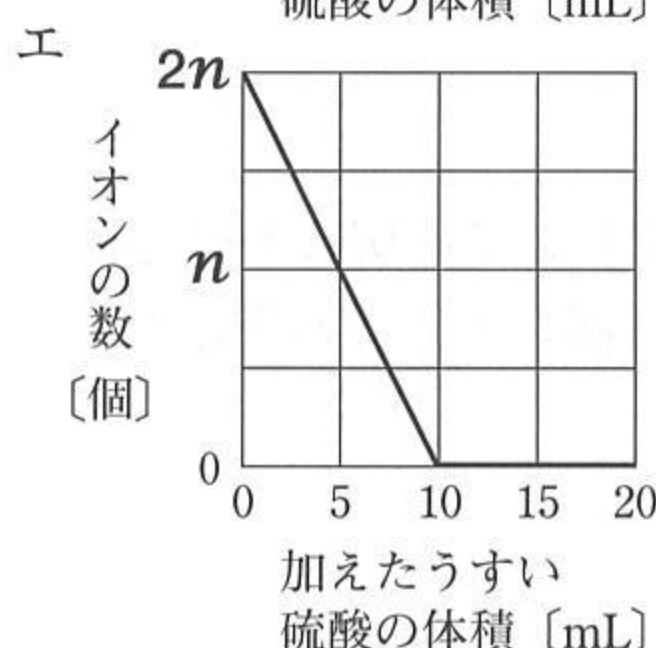
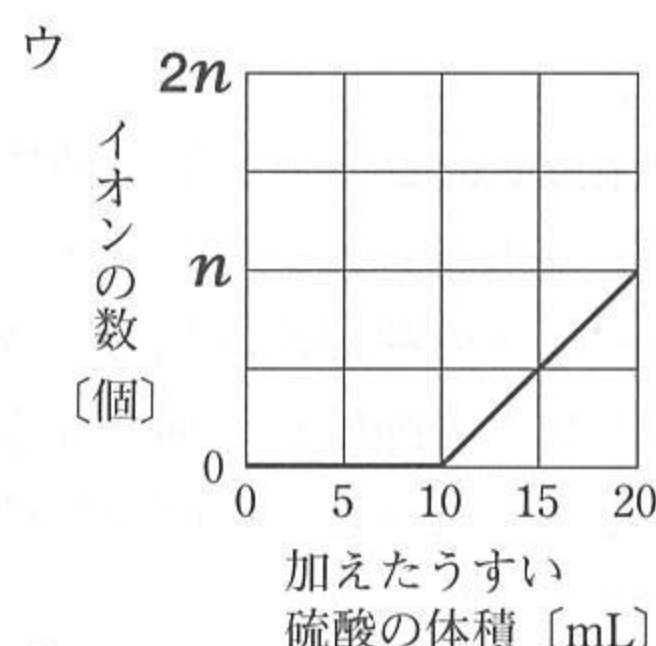
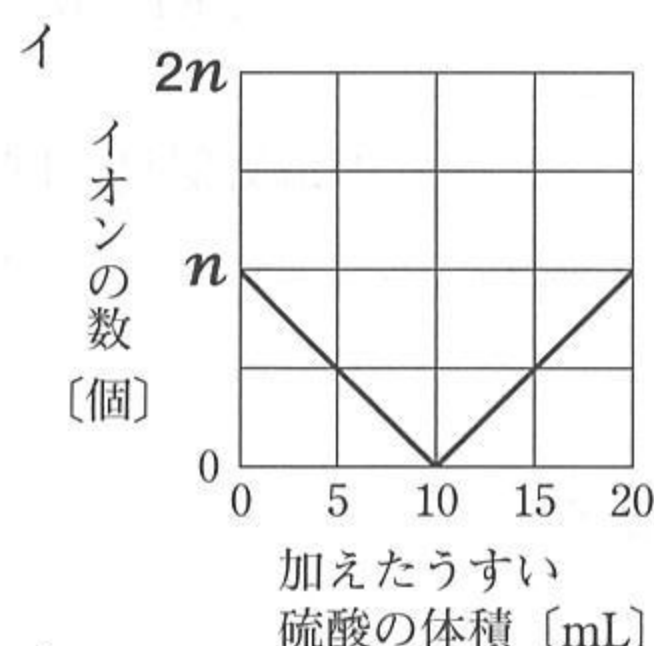
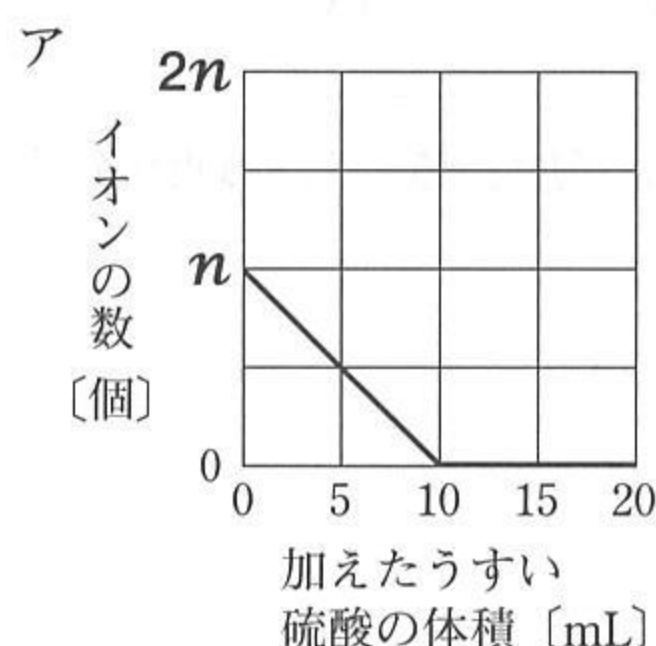
(5) [図2] は、[3]、[4]で、[3]の「うすい水酸化バリウム水溶液 20 mL」にふくまれる水酸化物イオンの数を  $2n$  個として、「加えたうすい硫酸の体積」と、混ぜた液中の水酸化物イオンの「イオンの数」の関係を表したグラフである。

[図2] を参考にして、次の①、②の関係を表したグラフとして最も適当なものを、ア～カからそれぞれ1つずつ選び、記号を書きなさい。なお、①と②には同じ記号を選んでよい。



① 「加えたうすい硫酸の体積」と、混ぜた液中の水素イオンの「イオンの数」

② 「加えたうすい硫酸の体積」と、混ぜた液中のバリウムイオンの「イオンの数」



この実験の後、[図1] の装置で [表2] のビーカーD～Hのろ液に電流を流したらどうなるか、太郎さんと花子さんは、予想を立てた。次の文は、そのときの会話の一部である。

太郎：[図1] の装置で、[表2] のビーカーD～Hのろ液に電流を流したら豆電球の明るさはどうなるかな。

花子：ビーカーD、Eのろ液は青色、ビーカーG、Hのろ液は黄色なので、同じ色のろ液どうしで比べてみようよ。

太郎：そうだね。まずは、ビーカーDとEのろ液に電流を流したときの明るさを比べてみようよ。

花子：ⅠとⅡを関連付けて考えると、( a ) のろ液に電流を流したときの方が明るいと思うわ。

太郎：なるほど。花子さんの考えを参考にすると、ビーカーGとHのろ液に電流を流したときの明るさを比べたら、( b ) のろ液に電流を流したときの方が明るくなりそうだね。

花子：そうだね。では、本当にそうなるか実際にやってみようよ。

(6) 正しい文になるように、( a )、( b ) に当てはまる適切な語句の組み合わせを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

	ア	イ	ウ	エ
a	ビーカーD	ビーカーD	ビーカーE	ビーカーE
b	ビーカーG	ビーカーH	ビーカーG	ビーカーH

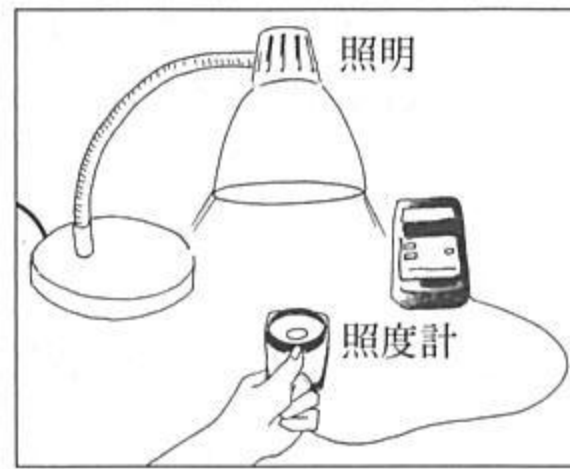


【3】 電気とそのエネルギーについて調べるために、次の実験を行った。(1)～(5)の問いに答えなさい。

Ⅰ 家庭の100 Vのコンセントを使用して、照明に使われる白熱電球とLED電球のちがいについて調べた。

- ① 消費電力60 Wの白熱電球の明るさを、[図1]のように、照度計で調べた。
- ② 点灯前と点灯させて3分後の白熱電球の表面の温度を、[図2]のように、赤外線放射温度計で調べた。
- ③ 消費電力60 Wの白熱電球を、同じ程度の明るさのLED電球につけかえ、①、②と同様に調べた。
- [表1]は、①～③の結果をまとめたものである。

[図1]



[図2]



[表1]

種類	点灯前の温度	点灯させて3分後の温度	明るさ
白熱電球	17℃	71℃	同じ程度の明るさ
LED電球	17℃	26℃	

(1) 家庭の100 Vのコンセントを使用すると、すべての電気器具に同じ電圧が加わる。この理由を述べた文として最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

- ア コンセントの配線が直列つなぎだから。
- イ コンセントの配線が並列つなぎだから。
- ウ コンセントにつなぐと直流が流れるから。
- エ コンセントにつなぐと交流が流れるから。

(2) ①で、白熱電球に流れる電流の大きさは何 mA か、求めなさい。

(3) [表1]をもとに、照明の種類によるエネルギー変換効率を考察した文として適切なものを、ア～ウから1つ選び、記号を書きなさい。また、そのように解答した理由を、解答欄の1行目の書き出しに続けて書きなさい。

- ア 白熱電球は、LED電球よりもエネルギー変換効率が良い。
- イ LED電球は、白熱電球よりもエネルギー変換効率が良い。
- ウ 白熱電球とLED電球のエネルギー変換効率は、同じ程度である。

発光ダイオード(LED)に流れる電流について、次の実験を行った。

Ⅱ 発光ダイオードに直流の電流を流し、その性質を調べた。

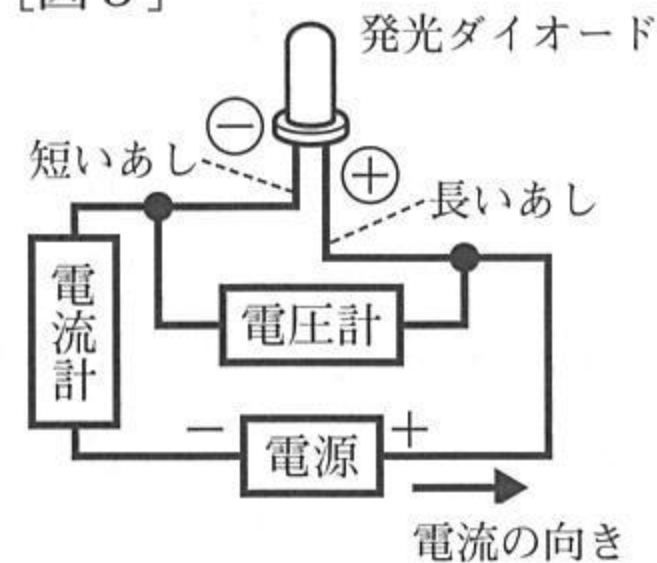
④ [図3]の模式図のように、発光ダイオードの長いあしを電源の+極につなぎ、発光ダイオードに加える電圧を変えたときの電流の大きさと発光ダイオードのようすを調べた。

[表2]は、その結果をまとめたものである。

⑤ [図4]の模式図のように、④と同じ発光ダイオードの長いあしを電源の-極につなぎ、④と同様に調べた。

[表3]は、その結果をまとめたものである。

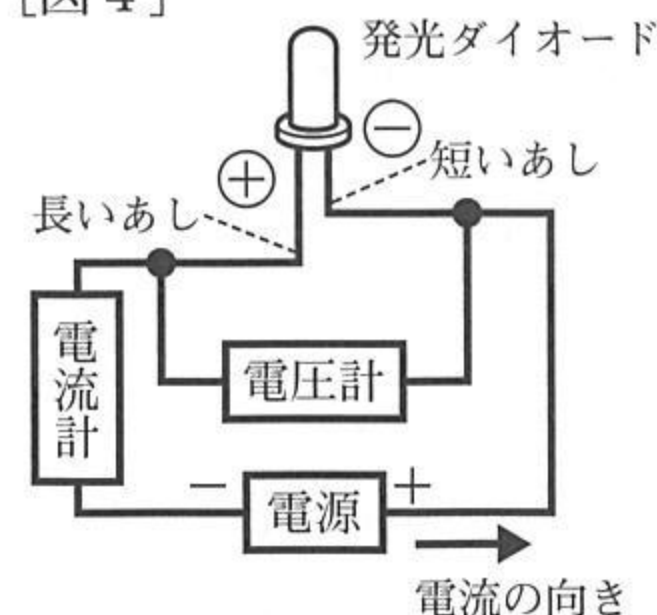
[図3]



[表2] ④の結果

電圧 [V]	電流 [mA]	発光ダイオードのようす
2.0	50	光った
4.0	180	光った

[図4]



[表3] ⑤の結果

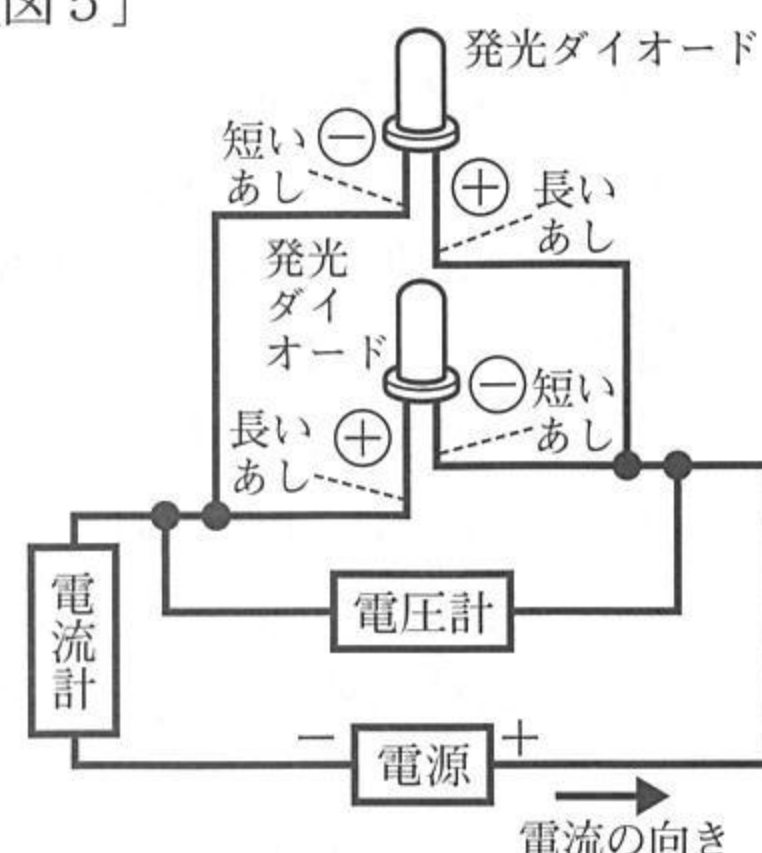
電圧 [V]	電流 [mA]	発光ダイオードのようす
2.0	0	光らなかった
4.0	0	光らなかった



- 〔6〕 〔図5〕の模式図のように、〔4〕で用いた発光ダイオードと同じもの2個を並列につなぎ、電源の電圧を4.0Vにして電流の大きさを調べた。

なお、一方の発光ダイオードの長いあしは電源の+極につなぎ、もう一方の発光ダイオードの長いあしは電源の-極につないでいる。

〔図5〕



- (4) 〔6〕で、電流計に流れる電流の大きさとして最も適当なものを、ア～カから1つ選び、記号を書きなさい。

ア 0 mA      イ 50 mA      ウ 90 mA      エ 100 mA      オ 180 mA      カ 360 mA

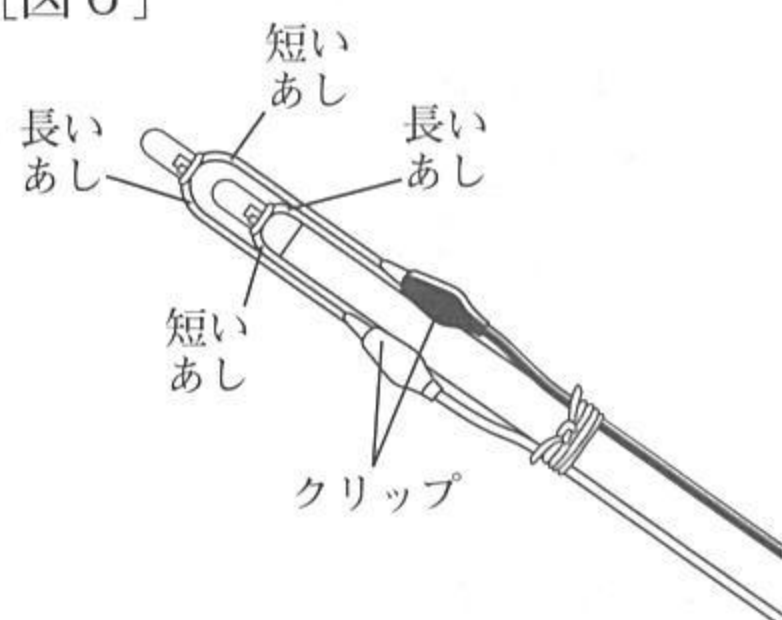
発光ダイオードの光り方について、次の実験を行った。

- Ⅲ 並列につないだ2個の発光ダイオードに、交流の電流を流し、その性質を調べた。

- 〔7〕 〔図6〕のように、2個の発光ダイオードのあしの向きを反対にしてクリップではさみ、棒につけた。それを用いて、〔図7〕の装置を組み立て、交流の電流を流して、棒を右から左に動かして発光ダイオードの光り方を暗い部屋で観察した。

〔図8〕は、そのときの電源の電圧の大きさを、オシロスコープで見たようすを表したものである。

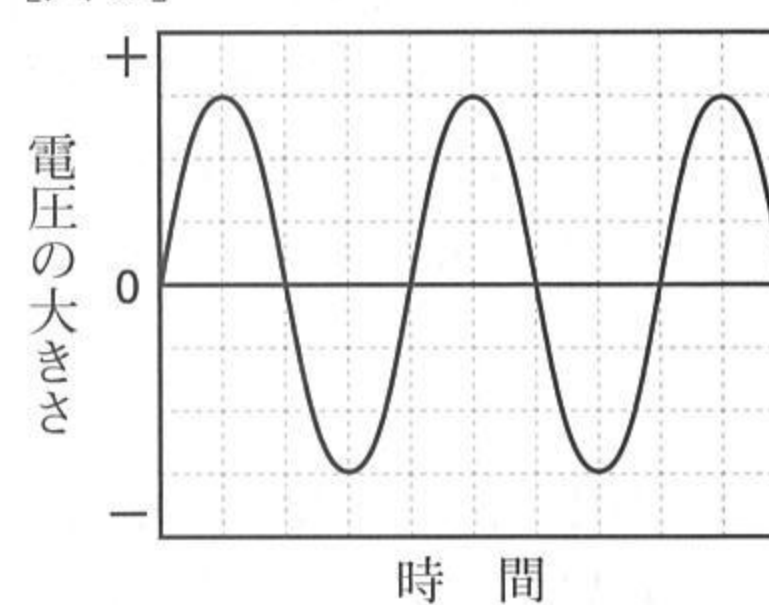
〔図6〕



〔図7〕

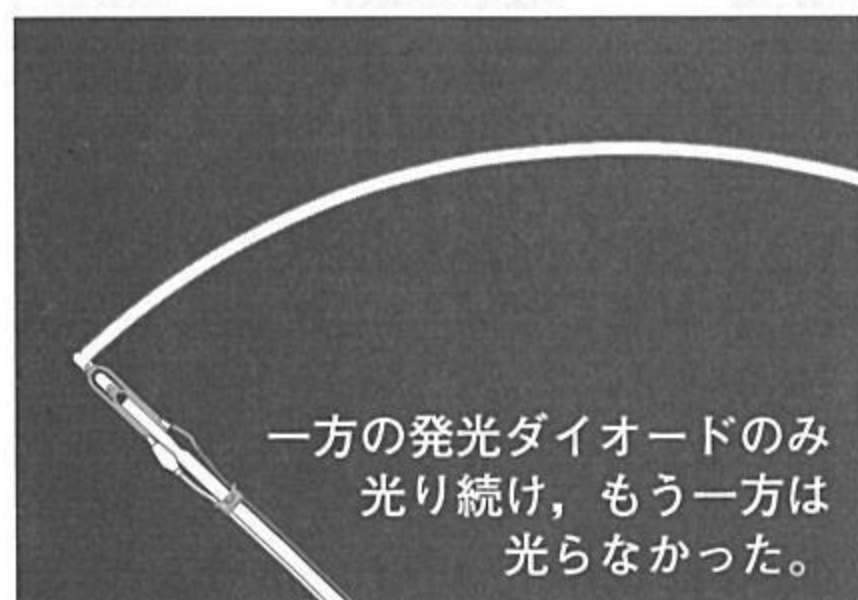


〔図8〕

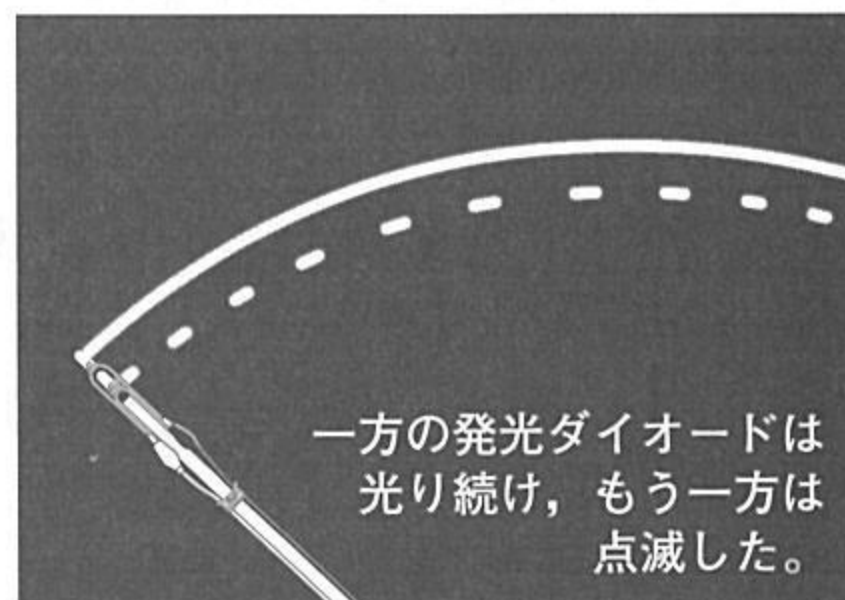


- (5) 〔7〕で、発光ダイオードを右から左に動かしたときの光り方を観察したようすを、模式的に表したものとして最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

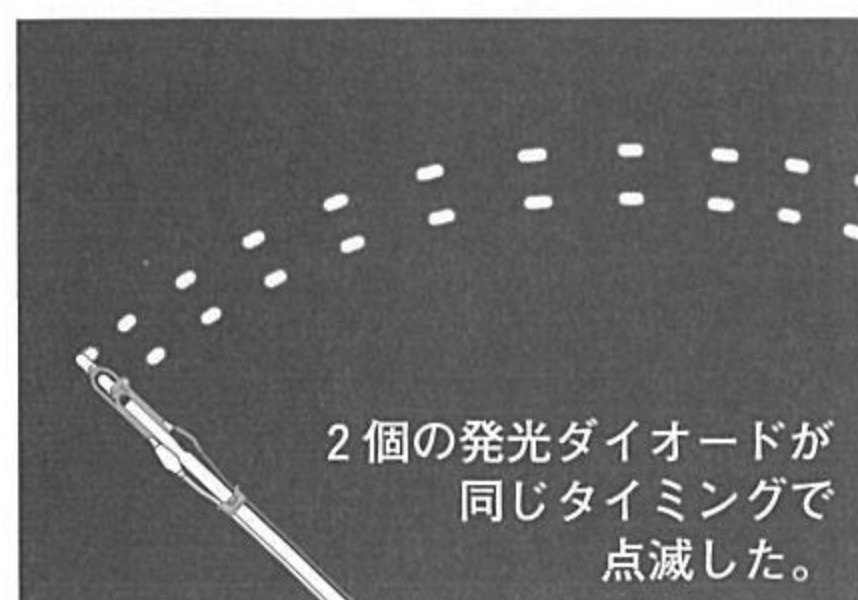
ア



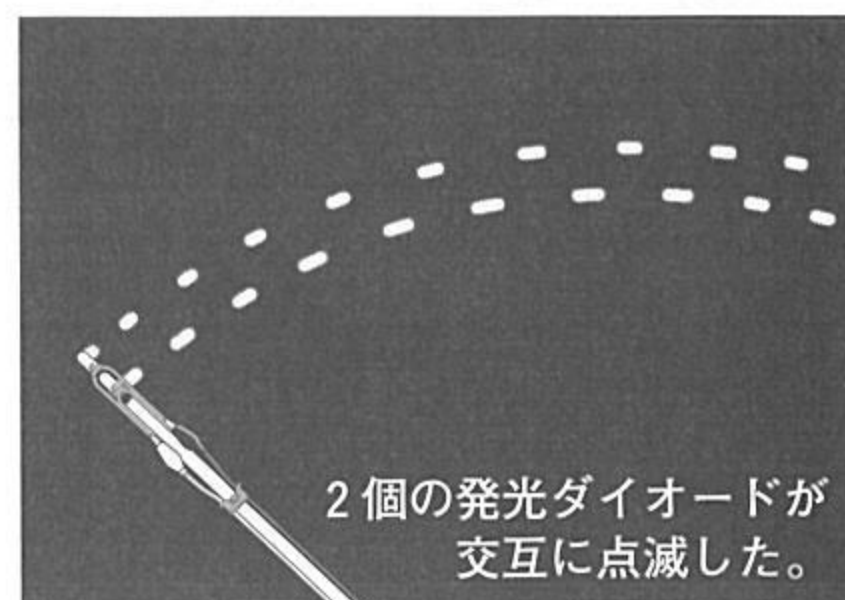
イ



ウ



エ

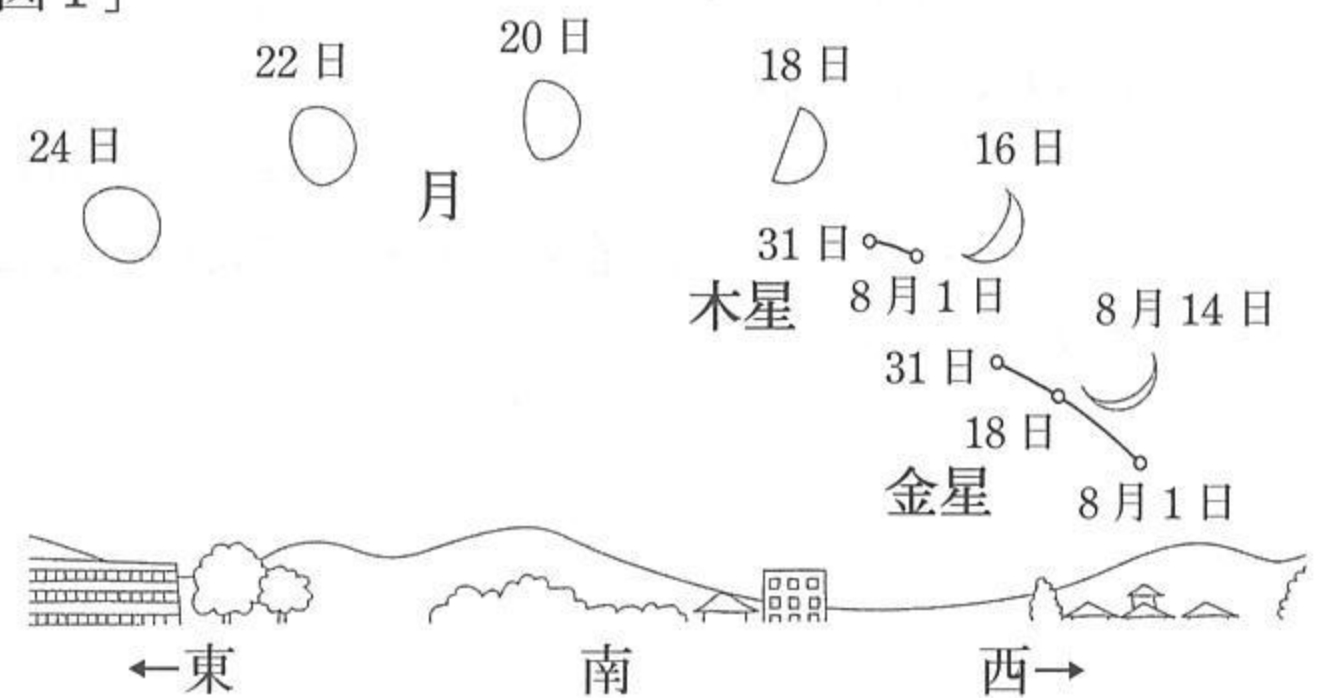


【4】 天体の動きについて調べるために、次の調査・観察を行った。(1)～(5)の問いに答えなさい。

- ① 国立天文台のホームページを調べたところ、2018年8月に、毎日継続して20時に観察すると、ある期間に金星、木星と月が近づいて見えることを知った。

〔図1〕は、金星の1日、18日、31日、木星の1日、31日と、月の14日から24日までの1日おきの、それぞれ20時におけるおよその位置をかき写したものである。

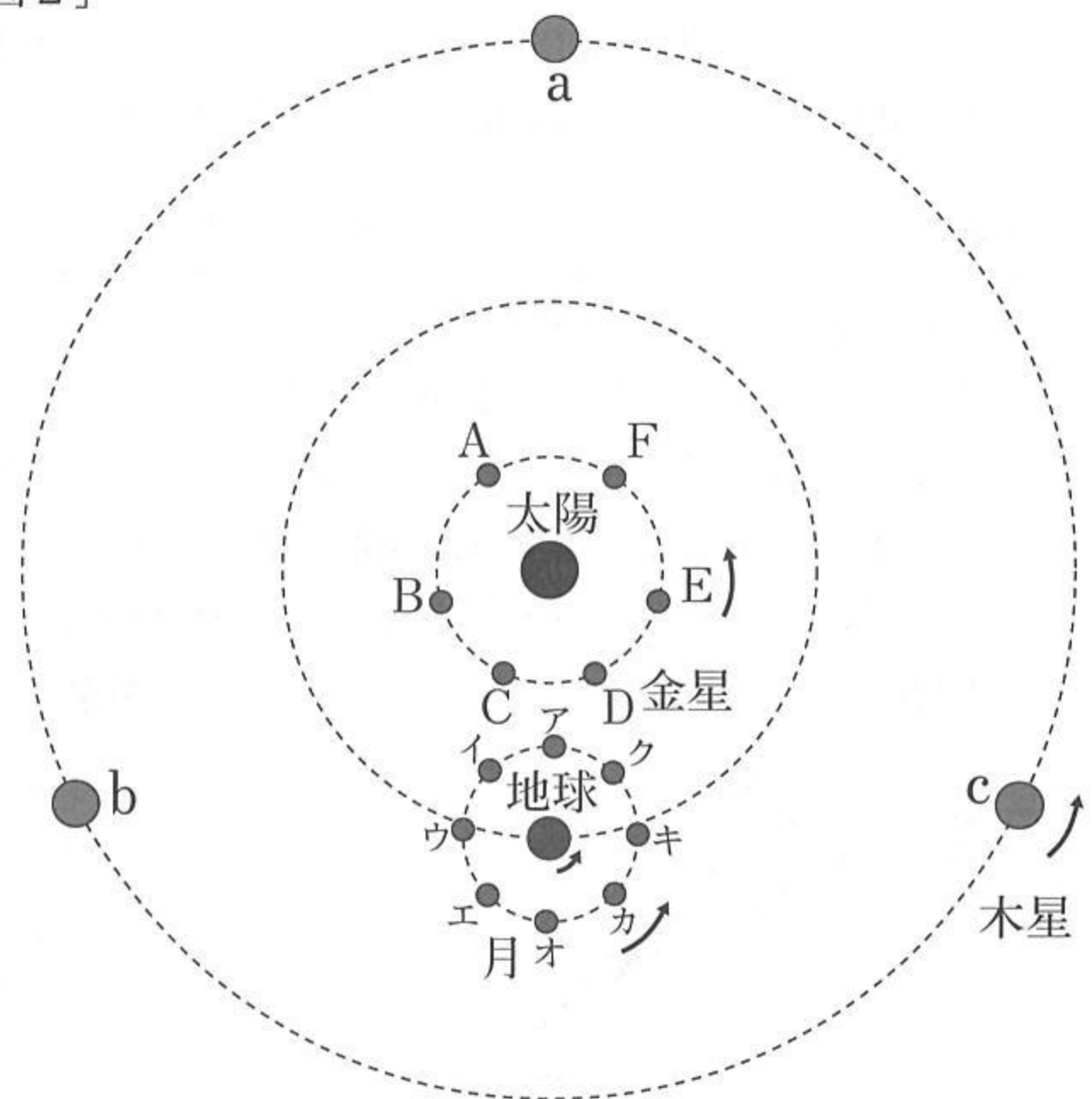
〔図1〕



- ② 図書館で、太陽と、金星、地球、月、木星の公転について調べた。

〔図2〕は、地球の北極側から見た、それぞれの公転の軌道を表した模式図である。金星、月、木星の公転の向きと地球の自転の向きは、それぞれ矢印で示している。

〔図2〕



- ③ 天文シミュレーションソフトを使って、2018年8月1日、8月18日、8月31日のそれぞれ20時における、地球から見える金星の形と大きさのちがいを調べた。

〔図3〕は、それらを画面上にうつし出したものである。8月18日の金星の形は、ちょうど半分が光っているように表示されていた。

- ④ 2018年8月18日の、日の入りのころと20時に、金星と木星をそれぞれ観察した。

日の入りのころは、金星が西の空に、木星は南の空に見えた。

20時になると、金星は西の地平線近くに動き、木星も西の方に動いていた。

〔図3〕 20時における金星の見え方

著作権者への配慮から、  
現時点での掲載を差し控えております。

8月1日                  8月18日                  8月31日

- (1) 〔図1〕で、2018年8月18日に観察できる月のことを何というか。最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。  
ア 満月          イ 新月          ウ 上弦の月          エ 下弦の月
- (2) ①で、2018年8月は、20時に月が見えない日があるということがわかった。このうち、8月1日の月は、〔図2〕ではどの位置と考えられるか。最も適当なものを、〔図2〕のア～クから1つ選び、記号を書きなさい。
- (3) ④で観察した金星は、〔図2〕ではどの位置と考えられるか。最も適当なものを、〔図2〕のA～Fから1つ選び、記号を書きなさい。



- (4) [図2]で観察した木星は、[図2]ではどの位置と考えられるか。最も適当なものを、[図2]のa～cから1つ選び、記号を書きなさい。
- (5) 次の文は、金星、木星の見える位置の変化と黄道を関連付けて述べたものである。正しい文になるように、( )に当てはまる語句を、簡潔に書きなさい。

金星、木星は、いずれも黄道近くに観察できるので、ほぼ( )を公転していると考えられる。

【5】 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 花子さんたちは、受けとった刺激に対するヒトの反応時間を調べるために、次の実験を行った。①～③の問いに答えなさい。

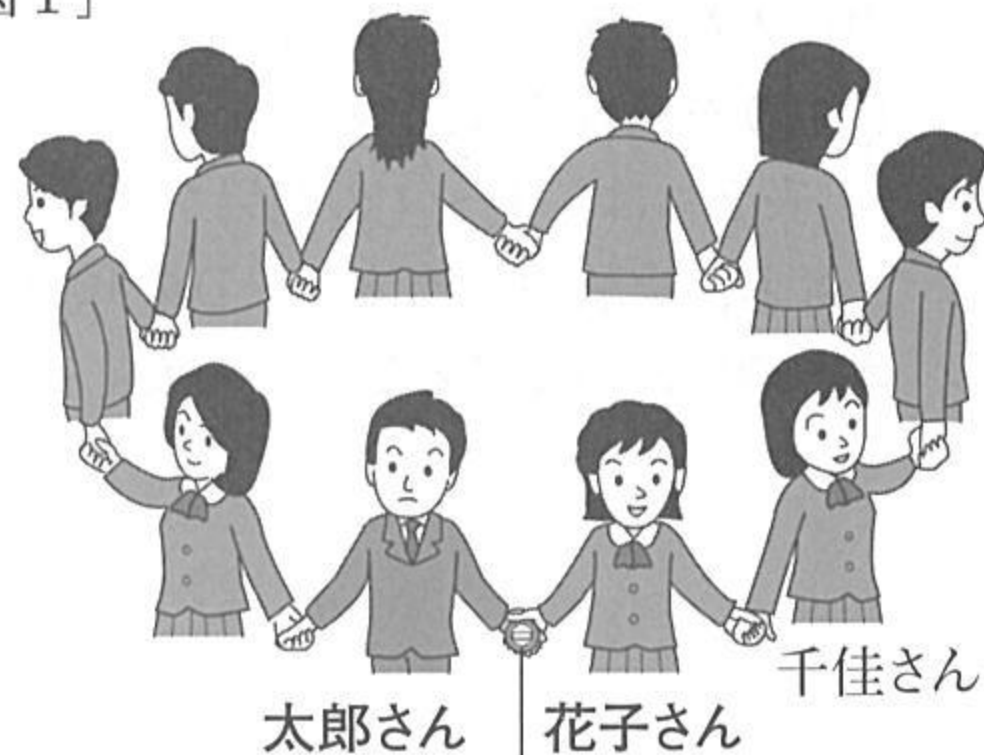
① [図1]のように、10人が外側を向いて輪になって手をつなぎ、花子さんと太郎さんが一緒にストップウォッチを持った。

② 花子さんは手に持っているストップウォッチをスタートさせると同時に、ストップウォッチを持った手と反対側の千佳さんの手を握った。

③ 手を握られた人は握られた手と反対側の人の手を握る。これを続けて行っていった。最後の太郎さんは手を握られたら、反対側の手に持っていたストップウォッチを握ってとめた。

[表1]は、①～③の実験を3回行った結果をまとめたものである。

[図1]



[表1]

ストップウォッチ

1回目	2回目	3回目	3回の平均
2.55 秒	2.37 秒	2.52 秒	2.48 秒

- ① ③で、手を握られるという刺激を受けとってから反対側の手を握るという反応が起こるまでの信号が伝わる経路として最も適当なものを、ア～オから1つ選び、記号を書きなさい。

ア 皮ふ→感覚神経→脳→運動神経→筋肉

イ 皮ふ→感覚神経→せきずい→運動神経→筋肉

ウ 皮ふ→感覚神経→脳→せきずい→運動神経→筋肉

エ 皮ふ→感覚神経→せきずい→脳→運動神経→筋肉

オ 皮ふ→感覚神経→せきずい→脳→せきずい→運動神経→筋肉

- ② [表1]で、手を握られるという刺激を受けとってから反対側の手を握るという反応が起こるまでの1人あたりの時間は何秒か。[表1]の3回の平均を使って、四捨五入して小数第二位まで求めなさい。

- ③ 刺激に対するヒトの反応について調べてみたところ、今回の実験での反応とは別に、熱いものにふれると無意識に手を引っ込めてしまうなどの反応があることがわかった。このように、刺激に対して意識と関係なく起こる反応の例として適切なものを、ア～エからすべて選び、記号を書きなさい。

ア 地震の揺れを感じたので、机の下に隠れた。

イ 明るいところに出たので、目のひとみが小さくなった。

ウ 食物を口に入れたので、だ液が出た。

エ 寒かったので、手に息を吹きかけた。



- (2) 水中の物体にはたらく浮力の大きさを調べるために、次の実験を行った。①～③の問いに答えなさい。  
ただし、100 g の物体にはたらく重力を 1 N とし、糸の質量と体積は無視できるものとする。

① 体積がそれぞれ  $10\text{ cm}^3$ 、 $20\text{ cm}^3$ 、 $30\text{ cm}^3$ 、 $40\text{ cm}^3$  の

ポリ塩化ビニルの物体 A、B、C、D を用意した。

② [図 2] のように、ばねばかりで物体 A～D にはたらく重力の大きさを、それぞれ調べた。

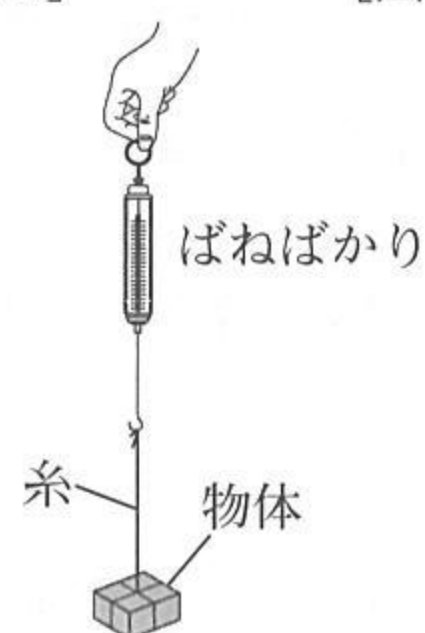
③ [図 3] のように、物体 A～D をそれぞれ完全に水中に入れ、浅いところで静止したときのばねばかりの目もりをそれぞれ記録した。

④ [図 4] のように、物体 A～D をそれぞれ完全に水中に入れ、深いところで静止したときのばねばかりの目もりをそれぞれ記録した。

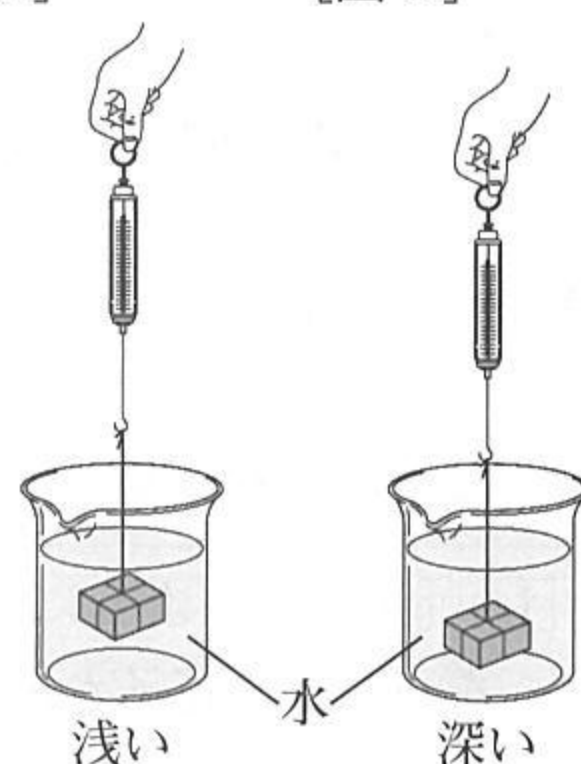
[表 2] は、①～④の結果をまとめたものである。

なお、実験中に物体 A～D の底面は、それぞれビーカーの底につくことはなかった。

[図 2]



[図 3]



[図 4]



[表 2]

物体	体積 [cm <sup>3</sup> ]	重力 [N]	ばねばかりの値 [N]	
			浅い	深い
A	10	0.15	0.05	0.05
B	20	0.30	0.10	0.10
C	30	0.45	0.15	0.15
D	40	0.60	0.20	0.20

- ① [表 2] で、ポリ塩化ビニルの密度は何  $\text{g/cm}^3$  か。小数第一位まで求めなさい。
- ② [表 2] をもとにして、水中の物体の体積と、浮力の大きさとの関係を、グラフに表しなさい。ただし、縦軸の ( ) 内に適切な数値を書くこと。
- ③ [表 2] で、深さと浮力の大きさとの間にはどのような関係があるといえるか。「深さ」「浮力の大きさ」という 2 つの語句を用いて、簡潔に書きなさい。

- (3) 試験管に入った 5 種類の気体 A～E がある。これらの気体は何であるか調べるために、次の実験を行った。①～④の問いに答えなさい。ただし、気体 A～E は酸素、二酸化炭素、アンモニア、塩素、塩化水素のいずれかである。

気体 A～E が入った試験管を用意した。

- ① 気体 A～E のにおいをかいだ。
- ② 気体 A～E の入った試験管の口に、ぬらした赤色リトマス紙を近づけた。
- ③ 気体 A～E の入った試験管の口に、赤インクをつけたろ紙を近づけた。
- ④ 気体 A～E の入った試験管の中に、火のついた線香を入れた。

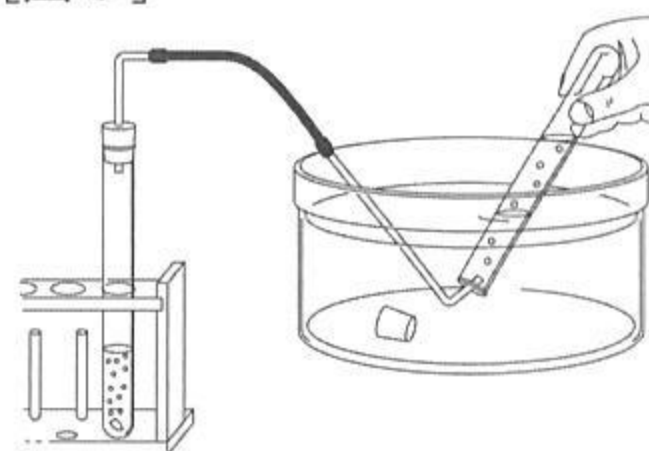
[表 3] は、①～④の結果をまとめたものである。

[表 3]

	A	B	C	D	E
実験①	特有の刺激臭がした	特有の刺激臭がした	においがなかった	特有の刺激臭がした	においがなかった
実験②	変化しなかった	白色に変化した	変化しなかった	青色に変化した	変化しなかった
実験③	変化しなかった	インクの色が消えた	変化しなかった	変化しなかった	変化しなかった
実験④	火が消えた	火が消えた	激しく燃えた	火が消えた	火が消えた

- ① [図 5] のように、水上置換法で酸素を試験管に集めるとき、気体発生装置からはじめに出てくる気体をしばらく出してから試験管に集めた。その理由を簡潔に書きなさい。

[図 5]





- ② ①で、においをかぐときの方法として最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。
- ア ビニール袋に気体を移し、そのビニール袋に顔を近づけてにおいをかいだ。
- イ 試験管の口にぬらしたろ紙を近づけ、ろ紙のにおいをかいだ。
- ウ 試験管の口に顔を近づけて、においをかいだ。
- エ 手であおぐようにして、においをかいだ。
- ③ [表3]で、アンモニアはどの気体か。最も適当なものを、[表3]のA～Eから1つ選び、記号を書きなさい。
- ④ 気体Eの入った試験管に、ある液体を加えて試験管を振ると変化が見られた。加えた液体とその変化のようすとして最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。
- ア 石灰水が白くにごった。                      イ フェノールフタレイン液が赤色に変わった。
- ウ ベネジクト液が赤褐色ににごった。                      エ 塩化銅水溶液が無色に変わった。

- (4) 夏に、地下室の換気のために外の空気を取り入れると、地下室の床や壁に水滴が多くついた。その理由を考えるために、次の観測を行った。①～③の問いに答えなさい。

① 夏のある日、地下室において、[表4]

換気のために外の空気を取り入れた。数時間後の地下室の空気の温度と湿度、地下室の壁の表面の温度を測定し、壁の表面のようすを観察した。この観測を何日か継続して行ったところ、水滴がついていた日とついていなかった日があった。

[表4]は、その結果をまとめたものの一部であり、[表5]は、それぞれの気温に対する飽和水蒸気量を表している。

日	空気の温度	湿度	壁の表面の温度	壁の表面のようす
8月2日	35℃	50%	( a )℃	水滴がついていた
8月9日	29℃	50%	( a )℃	水滴がついていなかった
8月13日	29℃	82%	( a )℃	水滴がついていた

[表5]

気温 [℃]	飽和 水蒸気量 [g/m <sup>3</sup> ]	気温 [℃]	飽和 水蒸気量 [g/m <sup>3</sup> ]	気温 [℃]	飽和 水蒸気量 [g/m <sup>3</sup> ]	気温 [℃]	飽和 水蒸気量 [g/m <sup>3</sup> ]
8	8.3	15	12.8	22	19.4	29	28.8
9	8.8	16	13.6	23	20.6	30	30.4
10	9.4	17	14.5	24	21.8	31	32.1
11	10.0	18	15.4	25	23.1	32	33.8
12	10.7	19	16.3	26	24.4	33	35.7
13	11.4	20	17.3	27	25.8	34	37.6
14	12.1	21	18.3	28	27.2	35	39.6

② ①と同様の観測を、冬のある時期に何日か継続して行った。

[表6]は、その結果をまとめたものの一部である。

[表6]

日	空気の温度	湿度	壁の表面の温度	壁の表面のようす
1月14日	8℃	42%	( b )℃	水滴がついて ( c )
1月17日	12℃	43%	( b )℃	水滴がついて ( d )
1月25日	12℃	72%	( b )℃	水滴がついて ( e )

- ① [表4]で、8月2日の空気1m<sup>3</sup>にふくまれている水蒸気の量は何gか。小数第一位まで求めなさい。
- ② [表4]で、( a )に当てはまる数値として最も適当なものを、ア～オから1つ選び、記号を書きなさい。なお( a )に当てはまる数値は、すべて同じである。
- ア 9      イ 14      ウ 19      エ 24      オ 29
- ③ [表6]で、( b )に当てはまる数値はすべて同じで、[表4]の( a )℃より3℃低かった。[表6]の( c ), ( d ), ( e )に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

	ア	イ	ウ	エ
c	いなかった	いなかった	いなかった	いた
d	いなかった	いなかった	いた	いた
e	いなかった	いた	いた	いた